

愛知教育大学（卒業生）活動報告

—豊田・みよし支部—

渡邊 亮介

(豊田・みよし支部 支部長)

1. はじめに

豊田・みよし支部の会員は、愛知教育大学を卒業したのち、豊田市・みよし市で正規教員として採用された年から地理学教室の同窓会に入会し、親睦と研修を積み重ねている。豊田・みよし支部の活動の大きな特徴の一つとして「豊田・みよし地理学会夏季巡検」がある。この巡検に参加した教員は、授業で使える教材を開発し、児童生徒が楽しく興味をもって取り組む地理の授業をめざしている。また、毎年6月に実施する支部総会は、愛知教育大学の先生方を来賓にお招きし、現職の教員だけでなく退職された皆さんも出席され、楽しいひと時を過ごしている。

2. 豊田・みよし支部同窓会役員及び役員会

(1) 役員について

①役員及び任期

- ・役員→支部長（1名）、副支部長（3名）、会計（1名）、評議員（7名）
- ・任期→役員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- ・選出→役員会で新役員を選出し、役員会に出席していない役員候補者は支部長が依頼する。

②役員の任務

○支部長（運営全般・渉外）

大学の先生の接待、OB会員との連絡、巡検場所の決定、巡検時駐車場の依頼、役員改選事務

○副支部長（組織担当）

役員会の召集と運営、会員名簿の作成、総会要項の作成、総会の典礼、巡検時懇親会の運営、大学の先生の交通確保

○副支部長（総会担当）

総会会場の確保と連絡、総会案内状・返信用はがき作成と配布、巡検の案内状・返信用はがき作成と配布、総会出席者の確保

○副支部長（巡検担当）

巡検日程の決定、巡検視察場所の予約連絡、交通

手段・巡検宿泊場所の確保、巡検要項の作成、大学の先生との連絡、巡検時の記録、巡検報告の作成と総会巡検報告会の運営

○会計（会計担当）

総会時の会計事務、大学の先生の手土産・交通費の用意、巡検時の会計事務（大学の先生への謝礼を含む）、会費未納者への請求、会計簿記帳と会計報告、その他会計事務全般

○評議員（副支部長と協力し、会の円滑な運営全般に当たる）

組織担当（2名）、総会担当（2名）、巡検担当（3名）

(2) 役員会について

①役員会の開催

支部長が、開催日時及び会場を決め、年3回開催する。

②役員会の主な協議内容

◇第1回役員会（6月下旬ころ実施）

新役員と役割分担の確認、夏季巡検（期日・場所・日程・内容・費用・愛教大の先生の参加・現地講師の有無・会員の参加状況の確認・当日の集合場所・巡検での役割分担）、今後の活動予定の確認

◇第2回役員会（2月下旬ころ実施）

今年度の活動と今後の予定の確認、今年度の役員の役割分担、今年度の活動反省、来年度の支部総会の計画（日時・場所・内容）、来年度の巡検計画（期日・場所・準備・運営）、来年度の役員選出

◇第3回役員会（4月下旬ころ実施）・・・次年度の役員予定者も参加

来年度の活動予定、総会の内容と準備（日時・場所・費用・役割分担・要項作成・参加案内・参加者の確認と勧誘）、来年度の新役員と役割分担、同窓会会員名簿の確認、来年度の地理学巡検の概要

3. 平成26年度 豊田・みよし支部総会

(1) 支部総会の次第

- ・支部長あいさつ
- ・巡検報告
- ・議 事
本年度事業報告
本年度会計報告
役員改選、新役員あいさつ
次年度事業計画
- ・来賓祝辞
- ・懇親会

(2) 支部総会の参加者

- ・来賓→阿部和俊先生、伊藤貴啓先生、岩崎公弥先生、近藤裕幸先生、阿部亮吾先生
- ・OB会員→ 8名
- ・現職会員→17名

(3) 支部総会での夏季巡検報告

支部総会では、前年度に実施した巡検参加者の中で執筆分担をし、A4版1枚にまとめて報告している。本年度は、「名古屋市白壁・主税・撞木の町並み保存地区」「伊勢市のまちづくり」「河崎湊の町並み」「犬山市のまちづくり」の4箇所について、それぞれの執筆者が報告した。

4. 平成25年度 豊田・みよし地理学会夏季巡検

(1) 日時及び日程

8月16日（金）

末野原中学校集合

(7:30) →

末野原中学校出発

(7:45) →

愛知教育大学出発

(8:30) →

白壁・主税・撞木

(9:00～11:30) →

昼食（サービスエリアで）→伊勢神宮外宮（14:30）

→ホテルへ（到着後、伊勢神宮内宮、おかげ横丁を散策）→懇親会

8月17日（土）

ホテル出発→

河崎湊

(9:00～10:30) →

昼食→

犬山（14:00～

16:00）→



町並みに調和させたマンションの入口（内部は老人用保養施設として利用されている）



河崎湊の町並み（妻入り二階建て）

愛知教育大学着（17:00）→末野原中学校着（17:45）

(2) 参加者

- ・会員→13名
- ・講師→阿部和俊先生、伊藤貴啓先生、井沢知且先生（名古屋学院大学教授）、谷口尚氏（伊勢市役所参事）、高田弘子氏（伊勢市役所都市計画室）
- ・愛知教育大学大学院生→20名

(3) 巡検での役割分担

①当日まで

巡検資料作成、大学の先生との打合せ、指導講師との連絡調整、交通社との連絡調整、参加者への案内、手土産準備、講師謝礼準備、部屋割り

②当日及び当日以降

あいさつ、謝礼渡し関係、巡検記録、記録写真指導講師との連絡調整、懇親会、駐車場借用お礼巡検のまとめ

(4) 巡検の概要（支部総会の巡検報告より）

①名古屋市白壁・主税・撞木の町並み保存地区

保存地区は、名古屋城の東に位置し、名古屋開府以来の古い歴史と緑豊かな美しい町並みが残されており、市内屈指の屋敷町を形成している。名古屋城築城以来、武家屋敷が置かれ370有余年、特に明治以降の大きな変革を経て、戦前の優れた近代洋風建築が建ちならぶ、今の美しい町並みが出来上がっている。

白壁町筋・主税町筋は、江戸時代、中級士族（300石級）の屋敷地であり、宅地分割されていない敷地が多く、その面積も大きい。主屋そのものが前面に出ることなく、主屋を囲む門・塀・緑によって構成される屋敷景観を残している。

明治期の陶磁器製品は、多治見・瀬戸で製品が出来上がっても、舗装条件や運搬方法がよくないため、破損してしまう製品は少なくない。そのため焼き上げは多治見・瀬戸方面で行うものの、絵付けはこの地域で行われてきた。絵付けされた製品は堀川から船で四日市に運ばれ、海外へ輸出される運送ルートを形成した。また、周辺部に職人が集中したことが要因し、ノリタケを代表とする輸外向陶磁器産業の中心として発展していった。

大正から昭和初期にかけて、勃興期にあった中京の財界を築いてきた著名な人々も多く住み（豊田佐吉、佐助、喜一郎らの豊田一族、ソニー創業者盛田昭夫氏、川上貞奴と電力王福沢桃介）、広大な敷地に大邸宅を建ててきた。その後、料亭に変わったり、戦後には進駐軍の高級将校用宿舎として利用されたりした歴史をも

つ質の高い住宅が多くあることを物語っている。現在、この白壁地区はこうした歴史の変遷を門+壁（白壁・黒壁）という形で残しながら、高級マンション、結婚式場や老人用施設として利用されている。

名古屋市の中心地にも近いこの地に、広大な面積とその面影を生かしながら住宅地が形成されている。一歩この地域に足を踏み入れると、名古屋市の市街地にいることを忘れるような雰囲気をもつ。武家屋敷から現在までの変遷を知ると、また違った思いでこの町並みを見ることができた。



門構えの奥の高級マンション（歴史的景観を生かした特徴的な街並みを形成する）

②伊勢市のまちづくり

1日目の午後、バスの中で昼食を済ませて、伊勢市役所に向かった。町おこしのために揃いの法被を着た伊勢市都市整備部都市計画課の方に出迎えていただき、伊勢市のまちづくりについての話を聞いた。新聞やテレビ等で話題になった通り、平成25年は伊勢神宮の20年に一度の式年遷宮の年であり、多くの参拝者が来訪した。話によると、平成24年は800万人の来訪者だったが、平成25年は7月末の時点で700万人（内宮が500万人、外宮が200万人）を超えたそうである。

配付された資料の説明の中で、神宮参拝者数の変遷についての話が特に印象に残った。資料にある参拝者数の変化から、これまでも式年遷宮の年には参拝者が急激に増加していることがわかった。また、内宮と外宮の参拝者数はほぼ同じだったが、昭和30年代後半をターニングポイントにして内宮と外宮の参拝者数の差が広がり続けている。この理由として、伊勢神宮への交通手段が電車あるいは汽車だった時代には「駅→外宮→内宮→駅」という順番で回るのが一般的だったものが、マイカーブームの到来や国道23号線の整備により、内宮のアクセスが良くなり、外宮を参拝せずに内宮のみ参拝する来訪者が増加したことがあげられることを知り、大変興味深かった。このままでは外宮の参拝者が減少し続けるため、それを防ぐために外宮周辺の再開発が進められている。

実際に外宮と伊勢市駅を結ぶ外宮参道を歩いてみると、建物の景観はすっきりと整備されており、駅前には有効活用できる広場や手荷物預かり所、美しい鳥居などがあり、多くの人で賑わっていた。ジャスコがあった場所には、各客室に温泉が付いたホテルが建ち、再開発の様子を見ることができた。



鳥居の間から見える「伊勢市駅」の文字

時間は限られていたが、外宮に平成24年にオープンした「せんぐう館」にも立ち寄った。1年余りで入館者数は50万人を突破したそうである。中には遷宮の様子を表した展示や外宮正殿の原寸大模型があった。内宮や外宮の参拝には行かなかったが、式年遷宮の年に伊勢のまちづくりについて学び、有意義な時間を過ごすことができた。



平成24年オープンの「せんぐう館」

③河崎湊の町並み

2日目。宿泊したホテルからバスで移動して河崎湊の町並み見学に向かった。河崎は16世紀の半ば、伊勢神宮門前町の山田・宇治へ物資を運ぶために勢田川を利用した水上輸送と物資を荷揚げして人馬で物資を送る陸上輸送を仲介する川の港として賑わった。

戦国時代から末期には、物流と金融の中心地だったこの地域は江戸時代に伊勢参りの参拝客に物資を供給する問屋街として大きく成長したようだ。山田奉行から伊勢神宮周辺の米と魚の卸売り専売権を認められ、

「伊勢の台所」として全国に知られたところである。

バスを降りた我々は、伊勢河崎商人館の西条さんに案内されて町並みを散策し、商人館へ向かった。

＜町の特徴＞・・・外からの観察

町屋の共通する外観

- ・ほとんどが妻入り二階建て
- ・母屋も蔵も、外観はすべて下見板張りであり、墨をまぜた魚油で塗られている。

※妻入り、切り妻の屋根になった理由は、伊勢神宮御昇殿の屋根が平入りのため同じでは畏れ多いということで妻入りとなった。

今回は町おこし、景観の観点から、昔の町並みを保存する河崎湊地区を訪れた。河川の氾濫に備えるということで、大規模な河川改修により、かつて川から荷揚げをした河崎独特の景観は失われていた。しかし、観光地化された宇治や、中心地として近代化された山田に比べて、昔の町屋が最も多く残され、これから注目されていくのではと感じた。

訪れた伊勢河崎商人館は、江戸時代に創業された酒問屋「小川酒店」の建物で川に面した蔵を持ち河崎を代表する商家である。中は奥へ行くほど広く、当時の豪商の暮らしぶりを感じることができた。現在は国の有形登録文化財となっている。伊勢市が敷地を買収し、修復整備を行い、伊勢河崎まちづくり衆が管理運営を行っている。



河崎の地サイダー
「Sサイダー」



川から景観を望む

④犬山市のまちづくり

犬山市は、愛知県の最北端に位置する。昭和29年に犬山町他4村が合併し、人口約35,000人の市として誕生した。現在の人口は、およそ75,000人である。西部は木曾川扇状地の頂上部にあり、標高は30～50mである。東部は130～150mの丘陵地（愛岐丘陵）で豊かな緑が残されている。

平成2年、城下町地区での高層マンション建築計画が発端となり、住民の景観に対する認識の高まりを契機として平成5年に「犬山市景観条例」が制定された。一方、城下町地内では、まちづくりの町内組織が立ち上げられ、住民と行政の一体的な取組が始まった。

「犬山市景観条例」の建築物や駐車場などの形成基準を見ると、「町並みの連続性」「周辺環境と調和」「景観に配慮」や「犬山城の眺望」「犬山城からの鳥瞰」のような語句が目立つ。犬山城を中心として、城下町として落ち着いた雰囲気のあるまちづくりをめざしていることがわかる。

城下町地区の中心をなす通りは、「電線類の無電柱化」「案内板のデザイン統一」「建物の修理・修景」「街路灯のデザイン統一」がなされ、落ち着いた雰囲気の感じられる通りになった。



電柱ではなく街路灯

犬山市のこうした取組は、城下町風の景観を整備することを手段として、犬山城来場者の増加や中心市街地の活性化など、犬山市がより豊かで活気のある都市になっていくことを目的とした施策である。

休日の午後3時ごろから市役所を訪れたが、職員の方は、休日にもかかわらず、町並みを一緒に歩き、丁寧に説明して下さった。



昔風の商店と石畳

《巡検地一覧》

回	年度	期日	巡検地	参加者数
1	昭和51	7/30・31	志摩半島	11
2	52	8/11・12	甲府 八ヶ岳	13
3	53	8/5~7	高知 岡山	19
4	54	8/10・11	長野 川中島	15
5	55	8/11・12	砺波村 五箇山	15
6	56	8/11・12	津具村	17
7	57	8/18・19	愛知県西部 三重県北部	16
8	58	8/11・12	清水市 焼津市	21
9	59	8/9・10	琵琶湖 東部	21
10	60	8/23・24	奈良吉野	17
11	61	8/10・11	淡路島	23
12	62	8/20~22	韓国済州島	15
13	63	8/23・24	北九州 筑豊	24
14	平成元年	8/23・24	南アルプス	14
15	平成 2	8/1~3	韓国ソウル・江華島	16
16	3	8/4・5	鳥取砂丘	14
17	4	8/10・11	武蔵野 奥多摩	18
18	5	8/12・13	吉野ヶ里 雲仙 長崎	20
19	6	8/7・8	琵琶湖東部	10
20	7	8/12・13	京阪奈学園都市 阪神震災地	16
21	8	8/10・11	庄川扇状地 五箇山 白川郷	13
22	9	12/25~27	香港	11
23	10	8/10・11	淡路島 (明石海峡大橋, 北淡町の断層など)	13
24	11	8/10・11	アクアラインと東京湾, 千葉銚子	16
25	12	8/5・6	木曾三川輪中, 長良川河口堰, 根尾谷断層	15
26	13	8/10・11	静岡県浜松市, 浜岡原発, 牧ノ原台地お茶	14
27	14	8/9・10	四日市市の環境, 中部空港と知多の漁業	15
秋季特別		11/23	蒲郡のハウスミカン, 渥美半島の輪菊と畜産	7
28	15	8/10・11	金沢の町並み保存と富山の地場産業	12
29	16	12/23~25	台湾の自動車工業, 農業, 水産業など	15
30	17	8/10・11	大阪の中之島, 京都の町割り歴史	9
31	18	8/11・12	琵琶湖東岸の環境保全, 近江八幡市町おこし	10
32	19	12/15・16	北九州市の町おこしと北九州工業地帯, 下関	11
33	20	8/7・8	和歌山城, マリーナシティ, 養翠園, 製鉄所	8
34	21	8/9・10	鳥取, 倉吉, 米子, 境港	13
35	22	8/7・8	浜松の市街地開発, 遠山郷, 中央構造線	8
36	23	8/6・7	若狭小浜, 丹後伊根	15
37	24	8/4・5	小牧の営業倉庫, 岡山の農業と焼き物など	11
38	25	8/16・17	名古屋白壁地区, 犬山, 伊勢, 河崎湊	13

5. おわりに

以上、豊田・みよし支部の組織、平成26年度の支部総会、平成25年度の巡検の様子を報告した。本支部は、OB会員も含めて70名を超える組織であるが、最近は新規採用される同窓会員が減少しているため、会員数が伸びず、年齢も高くなっている。今後も、支部の目的である「親睦と研修」を深めることができるように、多くの同窓会員が参加してもらえる支部総会・巡検に向けて働きかけをしていきたいと考えている。